

シミュレーション&ゲーミング学会誌 特集号論文募集のお知らせ

学会誌編集委員会は、下記の要領で特集論文を募集します。多くの会員にご投稿いただければ幸いです。

学会誌編集委員会委員・特集エディター

木谷 忍 (東北大学)

■テーマ：ロールプレイ：演じることの世界

■投稿締切：平成25年8月31日

■掲載予定：平成26年6月発行の学会誌

シミュレーション&ゲーミング(S&G)研究は、プレイヤー間の“コミュニケーション装置”をどう設計するかという妙味、さらにその装置の目的と、実現される世界のプレイヤーの意識・行動との間に、あらかじめ定められた評価尺度について必ずしも強い関連が求められていないこと(シリアスでないこと)が、S&G研究を創造的なものにしていく源流だと私は考えている。逆に言えば、多くのS&G研究で着目されるこの“装置”への参加主体(プレイヤー)について、何をどう評価するかという自由はありながらも、S&G研究として“主体の捉え方”についての一定の枠組みをつくる必要もあると感じている。

この特集では、S&Gで評価される参加主体が“演じることの世界”におかれていると見る場合に、彼らをどう評価しようかといった際に生まれる悩みを焙り出して行きたい。例えば、“演じる”という行為は、“役割”という社会的意味の中で評価されるだけでよいのだろうか。端的に言えば、それはS&G設計者による観測でしかない。マトヴェイチュクはこのような機能的妥当性とは違い、個人の取り組みそのものを評価する生態学的妥当性に着目する(マトヴェイチュク『ロール・プレイ：理論と実践』、書評：シミュレーション&ゲーミング、21-2, 2011)。しかしながら、生態学的妥当性は具体的にはどう評価しろというのだろうか。マトヴェイチュクは日常とは違う出来事「かのような性」をもとに、主体の行動選択のための「呈示」、主体への人格付与としての「自己関連づけ」というように、“役割”を社会的意味から評価するのではなく、主体の演技そのものを“装置”との関連で評価しようと試みる。にもかかわらず、いまだに私の欲求が満たされないのはなぜか。それは主体の“心の動き”が捉えられていないことにあるようだ。

S&Gに参加する主体は皆、「かのような性」の中で何かを感じ、湧き上がる衝動に内に演技をする。演じると同時に自由に振る舞うこと(役割創造)、役割が無意識化してしまうこと、予定調和的に社会の中に“溶ける”演技すること、自己を表現するために“目立つ”演技すること、等々。さらに言えば、演じる者だけではなく、演じられる者、演じる者を見る者(S&G設計者も含む)など、いわゆる彼らは全て“演じる者”である。このように考えていく

と、演技を包括的に評価することは生産的ではないと批判を浴びることにもなるが、S&Gでの主体の“内側”を評価していくには避けて通れないような気がする。

特集エディターとして相応しいとはいえないが、“演じる”という行為を捉える枠組みをどう創ればよいのかは今のところ白紙状態である。人間には、“演じる”という行為と“演じない”という二律背反的な行為があるのではなく、すべての行為を“演じる”という観点から眺めるのは、行為者の世界の外からみれば容易だが(演じる世界)が、そうではなく、主体の中の意識では、“演じる”という行為がもつ本人にとっての意味合いは、“演技からの解放”とか“自由に振舞う”というように、自ら役割を作り出すとする誘因、作り出した役割を遂行しようとする衝動を伴うもの(演じる「こと」の世界)、そんな風に考えてみたくなる。

マトヴェイチュクの述べる「かのような性」を作り出す“装置”に参加する主体のデータを評価する場合、“演じることの世界”としてそれを見直すことによって、多くのS&Gの論文がこの特集に含まれるのではないかと感じている。会員の皆様には、少しでも“演じること”からS&Gでの参加主体を評価する試みとして位置づけられるなら、特集論文審査としてどしどし投稿していただきたい。投稿論文を拝読させてもらいながら、少しでも“演じることの世界”からの評価の道筋をつけるよう私自身が勉強させていただき、多くの会員とともに特集号を完成させることができれば特集エディタとしては幸甚である。

■投稿要領：

通常の論文投稿規程に準じる。投稿された原稿は、特集エディターならびに学会誌編集委員会によって、特集論文審査、一般論文審査、非審査原稿(解説)、不掲載のいずれかとして扱われる。論文審査の場合、投稿原稿の採否は本学会が定める査読制度によって判定する。

なお、投稿に際しては、現行の1ページ目および封筒に「特集：ロールプレイ：演じることの世界」と朱書きのこと。また、電子ファイルの提出先は特集エディター宛とする。

■問合せ先：

木谷 忍 (東北大学) skitani@m.tohoku.ac.jp